

生息調査からわかったアライグマ対策のエラー！

1 はじめに

埼玉県内では外来生物であるアライグマが増加し、年間2千万円強に上る農作物の被害が発生しています。捕獲頭数についても平成16年度の31頭から平成27年度には3,491頭に増加しています。対策を行っても増加が止まらない原因を検証するため、平成26年10月から生息が確認されていない地域を中心に生息調査を行いました。

2 調査方法

調査は、休息や繁殖の場所として頻りに利用される神社と仏閣を中心に行いました。アライグマは爪を補助的に使って登るので、侵入されていれば柱などに明瞭な爪跡が残り、これらを確認することで生息の有無が確認できます(写真)。

3 調査結果からみえてきたこと

図は生息を確認した地点と捕獲地点を示したものです。毎年、多くの個体を捕獲していますが、捕獲地点は一定地域に集中していて、県内全体で捕獲していないことがわかります。農作物や家屋侵入などの被害が発生している地域でしか取り組みが行われていないのです。一方、生息地点は全県に広がっていることがわかります。アライグマは捕獲圧が高くなると低い地域に移動します。つまり、安全な地域で繁殖し、増加と分散を繰り返すのです。増加が止まらない原因は、生息地点と捕獲地点のズレです。

アライグマは気性が荒く危険な動物なので、増加は止めなければなりません。そのためには、被害が発生しているから対策を行うといった現在の取り組み姿勢を改め、県内全域で取り組む体制作りが必要と考えます。



写真 アライグマの爪痕

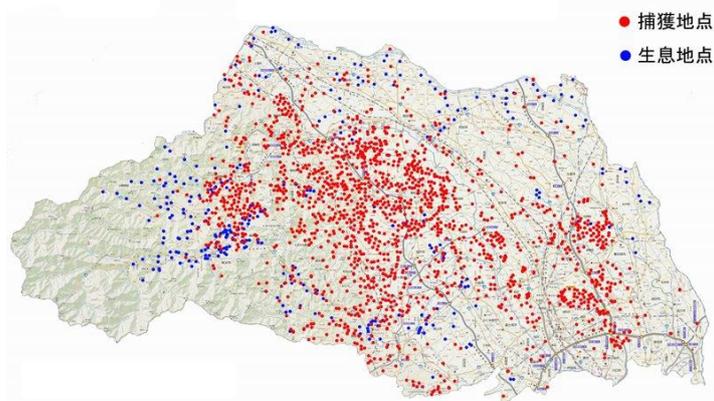


図 アライグマの捕獲地点と生息地点 (2016年2月現在)

【問い合わせ先】

農業技術研究センター生産環境・安全管理研究担当

電話：048-536-0311 (代表) FAX：048-536-0315 (代表)

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0909/index.html>